

写真展会場でテープカット



第45回宮城県芸術祭が開幕

はなやま

発行
社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0803)
仙台市青葉区国分町 3-3-7
宮城県民会館内
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
編集 小山喜三郎

芸術の秋を彩る第四十五回宮城県芸術祭が九月二十六日から
の写真、絵画の各展を皮切りに十一月二十一日の閉会式まで
二か月にわたり開催される。会期中、巡回展は写真展が美里
町で、絵画・書道展が、東松島市、大崎市、大和町の三か所
で開催される。なお(財)宮城県文化振興財団賞が創設された。

絵画、写真展で皮切り

写真・書道巡回展は4会場で開催

**県文化振興財団賞
6部門対象に創設**
第四十五回芸術祭から宮城
県文化振興財団賞が創設され
た。対象部門は絵画、彫塑、
書道、工芸、文芸、写真の六
部門で、閉会式で授賞される。

初日の開場式は午前十時か
らメディアアテーク五階の写真
展会場で行われた。式には主
催七団体の宮城県芸術協会、
宮城県、仙台市、県教委、仙
台市教委、河北新報社、県文
化振興財団の各代表と、写
真・絵画の各部員をはじめ芸

をわかち合っていた。そこで
当会でも来年は県民はじめ家
族にも開かれた授賞式などを
提案したい」と開会のあいさ
つ。
つづいて、今野純一宮城
県環境生活部長のあいさつ
の後、主催者各代表による

テープカット。写真展には
百三十二点、絵画展には日本
画五十九点、洋画二百四十五
点の力作が展示された。開場
式のと各会場それぞれ会
員の解説があり、鑑賞者が耳
を傾けていた。
このあと芸術祭は文学散歩
や彫塑展、華道展、書道展、
工芸展、茶会、長唄演奏会、
音楽会、文芸祭のほか文芸年
鑑の発行が予定されている。
また地方巡回展は写真展が美
里町近代文学館ギャラリー、
絵画・書道展は東松島市コ
ミュニティセンター、大崎市
松山体育館、大和町まほろば
ホールのみ三か所で開催される。
また芸術祭参加行事として
第五十三回仙台三曲協会定期
演奏会、第三十九回洋舞合同
公演ともにイブミティ21大
ホールで開催される。

閉会式は 11月21日

第四十五回宮城県芸術祭
の閉会式は十一月二十一日
(金)午後六時からホテル仙
台プラザで開催される。授賞
式のと各賞の受賞者を囲ん

で来賓と芸術協会の懇親会が
開かれる。会費は六千円(当
日、会場受付に納入)。多く
の会員の参加が望まれる。
参加希望者は十一月十四日
(金)までに芸術協会事務局
電話022(261)70
55へ申し込んでほしい。

六月二十三日、小山理事長を団長に洋楽部会員十一名、事務局の鈴木さんと計十三名で、文化交流の使命を持ち仙台空港を出発しました。

大邱空港二十時十五分着。崔会長をはじめ多くの出迎えを受け、早速歓迎式と歓迎会を開いていただきました。

二十四日午前、来年仙台での演奏会について代表者会議が持たれ、その結果、六月二十一日(日)にテノール重唱、マリンバを中心とした演奏会を行う事に決定しました。国情の異なる他国の演奏者を招く準備の大変さを痛感しました。今後交流を継続していくためには年々の社会情勢の変化に合わせた方法も考えなければと思います。

会議後演奏会場の壽城アトピアへ移動。昨年三月オープンしたばかりの美しい建物で、歓迎の垂れ幕や看板があり私達の演奏を楽しみにしている事を実感しました。

十九時三十分いよいよ本番。約八百人が会場を埋めつくしました。ステージのスクリーンに仙台の名所を写し出しながら演奏会が行われまし

仙台大邱交流音楽会

太田ゆり子

満席の聴衆は大喜び

た。プログラムの最後は「アリラン」を合同演奏し大変喜ばれました。

後半は大邱の誇るテノール九名による素晴らしい重唱でした。(この方達が来年仙台にいらっしやいます)

最後は演奏者全員による合唱「ふるさと」「おぼろ月夜」で幕が下りました。

無事演奏会を行えたのも大邱の実行委員をはじめとして、多くの方々のお力添えの故と心より感謝しております。私達も楽しく演奏いたしました。

その後歓迎晩餐会があり、大きな使命を果たし、ホッと笑顔を楽しく交流することが出来、思い出深い一日となりました。

翌日は大邱の世界遺産やオペラハウスを見学しました。次の日はソウルへ。景福宮などを見学し楽しい旅を終えました。

芸術協会の会員ならではの貴重な体験が出来た事を心より感謝しております。

来年は私達会員全員で大邱からの演奏者の皆様をお迎えたいと思っております。

平成二十年度の宮城県と中国吉林省との友好県省交流も今年で二十二回目を迎え、去る七月十日から十四日までの五日間の日程にて出かけてまいりました。

当地ではチベット事件、食に関する事件等いろいろと不安定な時期でもあり、参加者からも不安の声もありました。が検討を重ねながらも実施の運びとなりました。今回の茶道部による交流の旅では、県の方から今野純一環境生活部長を団長に他二名、芸協からは茶道部の抹茶煎茶の各流合同の参加者四十八名、計五十一名の大団体となりました。

事故がなく無事を祈りつつ仙台空港を出発、夕方には長春市の名門ホテルに着き、そのまま翌日の茶会のため準備設営に入りました。

その夜は文化庁ご招待の歓迎会があり、胡弓の演奏をいただき、そのお返しにと宮城県よりの参加者にて「北国の春」を歌わせていただきました。早速胡弓にて伴奏をして下さいまして、とても楽しい会になりました。

翌十一日は朝から茶席、開

吉林省文化交流茶会

大和田宗嬌

日本語で質問相次ぐ

場式典の準備を整えお客様と共に式典に臨みました。文化庁よりのお声掛けにて日本語を勉強している大学の学生さん達が多数参加してくださり、絶える事なく質問が飛び、日本語の応答で大変と言いなながらも喜んでいただきました。住所の交換等時間ぎりぎりまで興味を示され、交流の意義があつたように思いました。学生達は早く日本語を勉強して日本に行き通訳をするのが夢ですとの事。その一生懸命さに同年代の日本の若い方々にはない熱意を感じました。

十二日から二日間は北京市内を見学。万里の長城や天安門、紫禁城の大きさに驚き、またオリンピックを一ヶ月後に控えた鳥の巣ドームがまだ工事をしているのは驚きでした。

中国での貴重な感動を胸に日中友好の輪が一層深まったように感じました。何の事故もなく旅ができました事は参加者五十一名の協力の賜物と感謝を致しながら長春より仙台への帰路に着きました。

来年は中国より京劇の訪日を楽しみにお待ちしております。

フィナーレは日韓の音楽家によって「ふるさと」と「おぼろ月夜」の合唱

大邱音楽会



「歓迎」の横断幕で迎えられほっと一安心の芸協会員たち=大邱空港



贈られた記念品を抱き笑顔の芸協会員



深まる
友好



煎茶と抹茶の2席に分かれての交流茶会会場

吉林省茶会



茶会の会場に招かれ大喜びの女子高校生



お手前を見つめる拝服者たち

喜びの宮城県芸術選奨

平成十九年度の宮城県芸術選奨を五人、同新人賞五人が受賞、六月十六日に県民会館で授賞式が行われた。芸協会員は新人賞一人だけだった。ほかの受賞者は伊勢崎勝人(洋画)、斎藤艸雨(書)、佐藤淳一(写真)、宗教音楽研究会、若松孝二(メディア芸術)、新人賞は加藤千尋(彫塑)、津田裕也(音楽)、あまりました改め氏家美代(演劇)、鹿野護(メディア芸術)である。



美術(工芸)
鍋田尚男氏
(新人)

昭和四十四年生まれ。作品のテーマに日本の「和」への憧憬が息づいていて、着物や神社仏閣などをイメージさせるデザインとダイナミックな造形力、西洋のガラスの感覚が融合し、ガラス工芸に新たな世界を拓きつつある。

ガラス工芸を発信

来年で秋保町に工房を開設し十年目に入り、来年で秋保町に工房を開設し十年目に入り、この節目を前にすばらしい賞を頂き、とても嬉しく光栄に思っております。私の作品に対する思いは日本の伝統文化を大

切にし、その美しさをガラスに盛り込むことで、ここ数年は着物の紋様をテーマに制作しています。これを機にガラス工芸への理解が深まればと願い、発宮城、発仙台でガラスを全国に発信したいと思っています。

芸術祭の書道展でコラボレーション

一端が展示された。いずれも書道部がキーとなっていて、鑑賞者に注目された。

一つは工芸部との交流による「文房四宝展」で、陶芸による陶硯、水滴、青白磁筆

置、筆架と木竹のセキレイ飾文鎮、合わせて二十点を十四人が制作した。書道展会場に大きなガラスケースに収め展示された。

数点の作品を書にして展示した。中にはイメージを墨象として表現した作もあり、関心と呼んだ。

もう一つは文芸年鑑に発表した詩、短歌、俳句から二十も展開が期待される。

と書展の宝四房文芸文

県芸術協会は以前から部門交流を課題としてきたが、今年第四十五回芸術祭でその



書道展会場の文房四宝展



書道展の近代詩文コーナー

「淡墨の美」で書道部研修会

書道部研修会が十月十三日、県民会館で開催された。

をコーディネートにパネルディスカッション。尾形、高橋両参事を講師に実際の制作方法などを参観、約二時間及び研修会だった。

「淡墨の美」わたしの工夫と表現」をテーマに、墨運堂会長の松井茂憲氏が基調講演、引き続きパネリストに松井会長、尾形鼎山と高橋孤舟の両参事、中塚仁書道部主任講師、盛会だった。

みやぎミュージックフェスタ 2008 in 白石が「秋おくる・響け白石・き・ら・り」と題し、十一月三十日(日)午後二時から白石市キューブで開催することに決まった。プログラムは四部構成で、演奏時間は二時間の予定。目下上演に向けて練習を重ねている。(敬称略、○は芸協会員)

「ゲイジュツの秋」 絵画部と県民交流

平成二十年十月四日(土)当協会絵画部が県民との美術交流を目的に二会場で「芸術の秋・秋の一日ゲイジュツしましょう！」をテーマに開催された。

I. 人物クロッキー

同日午後二時から四時まで県民会館四階会議室で、山岸俊夫・白澤良雄・森真澄の三氏を講師に迎えてモデル(裸婦)を使って、初心者でも簡単に人体をとらえられるように描く講習会がもたれた。

II. ギャラリートーク

同日午後三時から五時までせんだいメディアアテーク五階・六階を会場に成人を対象

(1) ○斎藤功一ギターソロ、○福原佳三ピアノソロ、○中村優子・佐々木隆行(独唱、二重唱)、伴奏福原佳三

ミュージックフェスタ 2008

白石市キューブ 11月30日開演

米澤時子、伴奏佐々木愛、コーラスやまぶき、指揮酒井清雄、伴奏渡邊真琴、オルガンソロ 吉村昌美、コール・エコー、指揮米澤時子、伴奏佐々木愛

(3) キューブジュニア、指揮中村優子、伴奏吉村昌美、キューブ合唱団、指揮佐々木隆行、伴奏柴田朋子・福原佳三

(4) 全員合唱 白石子守歌、こけし賛歌、指揮佐々木隆行、伴奏吉村昌美・斎藤功一、編曲 佐々木隆二

に行われた。開催中の絵画展の作品を見ながら、今日の絵画・美術事情や展示に関わる話を芸術協会運営委員の斎藤敏行氏が披露した。

III. 絵画楽園

同日午後一時から三時まで同会場で、児童・生徒を対象に美術とは楽しいものと実感できる体験対話形式の鑑賞会が行なわれた。講師は吉田利弘・庄子明宏の両氏がつとめた。

啄木たずね文学散歩

第四十五回県芸術祭の文学散歩「盛岡・北上方面の文学の旅」が九月三十日(火)三十三名が参加して行われた。初冠雪した岩手山、早池峰山、姫神山がくつきり見え

事務局 日誌

るほどの秋日和であった。はじめに盛岡市玉山区で石川啄木が代用教員をした浪民尋常小学校で、啄木記念館の学芸員の説明を受けた。次に

記念館で啄木の世界を満喫。そして北上市へ。現代日本詩歌文学館では初代名誉館長をされた井上靖コーナーの常設展を見学した。

会務報告

- 6・6 東北・北海道芸術文化団 体協議会総会
- 役員の選出について
- 平成19年度事業報告及び収支決算について
- 平成20年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 7・17 理事会
- 平成20年度予算及び行事予定
- 理事会年間開催予定及び分科会(A・B・C委員会)の進め方、理事分担等
- 45周年記念行事

後援

- 芸術祭賞の配分
- 参事会、評議員会の持ち方
- 事務分担
- 8・25 評議員会
- 各部門の事情説明と今後の評議員会の進め方について
- ☆第44回書禅会書展
7月18日～7月23日
せんだいメディアアテーク
- ☆第53回筆祭り全国書道展
7月25日～7月28日
せんだいメディアアテーク
- ☆宮城示現会美里展
7月27日～8月3日
美里町近代文学館ギャラリー
- ☆第16回宮城独立美術展
8月1日～8月6日
せんだいメディアアテーク
- ☆玄穹社社中展併催第1回玄穹社学生展
8月8日～8月10日
せんだいメディアアテーク
- ☆第12回グラン・ラパン展
8月8日～8月13日
せんだいメディアアテーク
- ☆成瀬美術記念館開設15周年記念画展
8月10日～一年間
成瀬美術記念館
- ☆第61回春光会展
8月19日～8月24日
古川市民ギャラリー 緒絶の館
- 8月26日～8月31日
美里町近代文学館
- ☆第33回宮城新協美術展
8月23日～8月28日
東京エレクトロンホール宮城
- ☆第9回山田明於絵画教室合同展
8月29日～9月3日
せんだいメディアアテーク
- ☆第44回宮城水彩展栗原展
8月29日～9月6日
栗原文化会館
- ☆アートWAVE 2008 in 仙台
9月5日～9月10日
せんだいメディアアテーク
- ☆第27回新芸術協会東北支部展
9月5日～9月10日
せんだいメディアアテーク
- ☆第23回都山流尺八演奏会

- 9月7日 若林区文化センター
- ☆チルコロ・フローラ第43回定期演奏会 9月20日
- ☆仙台市青年文化センター
- ☆「書の勉強会」「臨書研究の生 成」書作小品展併催「鈴木隆子 作陶展」「遠藤キミ子民芸展」 10月10日～10月13日
- 古川市民ギャラリー蔵
- ☆第17回河北工芸展 10月14日～10月19日
- さくら野百貨店8階催し物会場
- ☆歌とピアノのコラボレーション ♪心に響く名曲の調べ♪ 10月16日
- イズミティ21小ホール
- ☆新藤典子パイプオルガン演奏会 10月21日
- 仙台青葉荘教会
- ☆30周年記念青蓮社中展 10月24日～10月27日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第7回夢・楽描き展 10月24日～10月29日
- せんだいメディアアテーク
- ☆人物画同好会・勾当台デッサン会合同作品展 10月27日～11月1日
- オンワードスクエアギャラ リー
- ☆東北書道選抜展 10月31日～11月5日
- せんだいメディアアテーク
- ☆イタリアオペラアリア&アン サンプルの夕べ
- 11月6日
- イズミティ21小ホール
- ☆第33回素心会書道展 11月7日～11月12日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第33回教育書道研究会学生部 書道展 11月7日～11月12日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第3回宮城書道研究会書道展 11月7日～11月9日
- 登米市迫体育館
- ☆宮城教育大学マンドリン部 第37回定期演奏会 11月15日
- イズミティ21
- ☆平成20年度(第31回) 大伴家 持のつとむ短歌大会 11月16日
- 東北歴史博物館
- ☆歌いつがれゆく日本の歌ー ーなつかしい歌あたらしい歌ー 11月18日
- 仙台市青年文化センター
- ☆山田流「あゆみの会」箏曲演 奏会 11月20日
- 仙台市戦災復興記念館
- ☆第16回人物画研究会作品展 11月21日～11月26日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第47回洗心書道展 11月22日～11月25日
- 仙台市民会館展示室
- ☆クール・リュミエール 第42回定期演奏会 12月1日

- 仙台市青年文化センター
- ☆クレーンバレエアトリエ子供 のための楽しいバレエークリス マス・ガラ・コンサート Part3 12月7日
- 仙台市青年文化センター
- ☆第16回宮城シニア美術展 12月18日～12月21日
- 宮城県美術館県民ギャラリー
- ☆第26回メサイア(救世主)演 奏会 12月23日
- 電力ホール
- ☆河北書道展開催55回記念 小中学生新聞紙上展 12月中旬紙面発表
- ☆第2回創清研究会書展 平成21年1月30日～2月4日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第4回 Dance competition in Sendai 2009 2月14日～2月15日
- 仙台国際センター
- ☆第26回白土会展 2月19日～2月25日
- せんだいメディアアテーク

受 贈 書

- 「第60回塩竈市美術展記念誌(塩 竈公民館)」、歌集「風語」(桜井千 恵子)、エッセイ第4集「普段着 の人生」(千葉陽正)、「第30回記 念白亜展画集」(白亜美術協会東 北支部)、歌集「胸の鳥籠」(岡本 弘子)、句集「朧夜」(杉山三枝子)、 鈴木輝雄句集「荒涼凍土」(川柳 宮城野社)、「すずかけ」第42集(す ずかけ短歌会)、「聖和学園短期大 学紀要」第45号(同大学)、「翠桂 作品集」(狩野翠桂)、「ひいらぎ」 第33集(亘理ひいらぎ句会)、「自 選画集熊谷栄吉」(著者)、「一迫 川」第10号(一迫文化協会)、詩 集「眠られない人々のために」(佐 藤幸雄)、「花野」第24号(濱仙台 句会)、「歌人・阿部静枝とその精 神性」短歌作品に見る近代性につ いて(菅原千代)

退 会 会 員

- 【絵画部】(洋画)渡邊宗夫【彫塑部】 翁ひろみ【書道部】多田青蓮(康)、 相原華月(美津江)、高橋艶亭(つ や子)、亀山彩雅(みよの)、田上 初子、西澤正堂(正視)【文芸部】短 歌)落合百合子(俳句)鈴木壺山 (孝三)

謹 弔

- 文芸部 (短歌) 新妻てるよ殿 平成19年9月5日
- 文芸部 (短歌) 大友堅太郎殿 6月3日
- 絵画部 (洋画) 熊倉保夫殿 7月1日
- 書道部 吉田翠和殿 7月19日
- 音楽部 (長唄) (邦楽) 杵家七可 (林昌子) 殿 8月23日
- 茶道部 (三彩流) 熱海桂峰殿 10月4日

けやきの譜

第四十五回宮城県芸術祭が開幕した。十一月二十一日の閉会式まで約二か月のロングランである。ところで第一回はどうかだったか。「芸協十周年史」によると昭和三十九年十一月三日から八日まで、絵画、彫塑、工芸、書道の四部門、会場は仙台市内のデパート三店で分散開催だった▼この第一回展開催が宮城県芸術協会発足のきっかけとなったのである。詳しくは十周年史に述べてあるが有志が芸術祭開催を原に働きかけ、結果として協会結成に至った▼こゝで特記したいのは協会機関紙「はなやま」の題号に遺され、今日に至っていること。当時の県会議長門伝勝太郎氏が懇談会を招集、三回目を栗原郡の花山ダム湖畔で開き、民間の力で組織結成が決まった。それを記念しての「はなやま」である▼平成二十年六月十四日の朝、岩手・宮城内陸地震が発生、栗原市花山も甚大な被害を受けた。被災の爪跡はまだ癒えていない。無視はできないのである。(純)